



かよ！」という声が聞こえてきそうですが、今さらなんです。

むし歯ができてしまったら、削って金属やプラスチックで詰める。さらに深くなって神経まで達してしまつたら、神経を抜いて、さし歯にする。皆さんのむし歯治療のイメージって、こんな感じではないでしょうか？たしかに、大まかにはその通りです。でも最近では、薬品の進歩によって「神経を抜かずに済むケース」が増えてきているんです。

歯科界では、私たちが大学を卒業した頃から「神経を守る治療」が少しずつ広まり始めていました。ふれあい歯科ごとうでも、そうした治療にはずっと力を入れてきました。そして今では、

薬品の開発がさらに進み、以前よりもずっと安全に、神経を残すことができるようになってきています。「神経を抜くしかない」と思われたケースでも、守れる可能性がある。そんな時代になってきたのです。

私たちも改めて勉強を重ね、より安全で、より患者さんの歯を守れる治療を心がけていこうと、気持ちを新たにしています。

同窓会

来月始め、本当に久々に大学の同窓会が開催されます。5年前に「卒業30周年」で開催予定だったものが、コロナで延期になり、35周年として今年開催されます。

私の時代は1学年160名、6年

間ほぼ同じメンバーで過ごします。だから総合大学のように全く知らない同級生はいないんです。

先日、ふと考えてみました。私は卒業以来、約1万人（実人数）の方の診療をしてきました。もちろん、もっと多く診ている人もいれば、家庭に入って診療していない方もいます。でも仮に、1人が1万人診療していたとしたら―あの教室にいた160人で、なんと160万人の診療をしてきたことになります。すごいインパクトですよ。ちょっと感慨深くなりました。

日頃はなかなか会う機会もないので、同級生のイメージは若い頃のまま。35年ぶりにあのメンバーに会えるのは、本当に楽しみです。「五島、老けたなあ！」なんて言われるのか？！